

『 読書は他人の人生を生きること 』

数学科 宮本万理子

私は高校時代、図書館をあまり利用しない生徒でした。時間のあるときに、勉強するために利用するぐらいでした。それでも、高校時代、朝読書の習慣のある学校に通っていたため、定期的に読書はしていました。なかでも松本清張や夏目漱石の作品が好きで、「黒革の手帳」、「砂の器」、「文鳥・夢十夜」などを read した記憶があります。余談ですが、夏目漱石にはまっていた頃に受験したセンター試験で、夏目漱石の作品が出題され、苦手だった国語で高得点を収めることができました。

大人になってからは、本を読む機会もめっきり減ってしまいましたが、最近読んで面白かった作品を紹介したいと思います。

それは、東野圭吾の「時生」という作品です。観たい映画の待ち時間を潰すために買った本でしたが、読み進めるうちに引き込まれ、一日で読み上げてしまうほどでした。舞台は 1970 年代の日本。当時は携帯電話のない時代、これから通信技術が発展していく頃で、KDD 事件や日本坂トンネル火災事故もモチーフとして扱われています。

不治の病である「グレゴリウス症候群」を患う主人公の息子に最期のときが訪れようとするなか、宮本拓実（たかみ）は妻に「息子と二十年以上前に会ったことがある。」と話し始めます。本編は主人公の過去の話で、夢見がちでダメな男だった拓実が、将来の自分の息子である「トキオ」と名乗る少年と出会い、共に行動をするうちに成長をしていくとあったまるでドラえもんとおび太のようなストーリーです。

作中で、幼いころに母親が失踪したことを悲観する主人公に、恋人の友人がこんな言葉をかけます。「悲観しててもしょうがない。そら誰でも恵まれた家庭に生まれたいけど、自分では親を選ばれへん。配られたカードで精一杯勝負するしかないやろ。」と。今の自分にあるもの、つまり「配られたカード」、これを改めて考える機会はありません。自分には何があって、何ができるのか。見方を変えることで、開ける道もあるのではないかと、そう感じました。皆さんに配られているカードは何ですか？これができない、あれがない。そうネガティブに考えるのではなく、自分の手札でできることを考えることが大切だと思います。

私は、読書によって、自分とは違う人生を体験することを通して、自分以外の視点を手にすることができたり、日ごろは考える機会のないことを考えたりすることができると思っています。自分にはない感性を身に付けることで、実人生の何倍もの体験をし、経験豊かな人生を歩むことができると考えています。

また、今、図書だよりの執筆を機会に新しい本に挑戦しています。Influential individuals が出版している、「THE LIFE, LESSONS&RULES FOR SUCCESS」という本です。これは、ワイルド・スピードやジュマンジに出演している、アメリカの俳優のドゥエイン・ジョンソンの伝記です。英文であるため、さっぱり進みませんが、少しずつひも解いていければ…と地道に読んでいます。この本を通して、自分では実体験できないような、新たな経験を積みたいと思います。

11月までの貸出冊数

前期生 9.4 冊 後期生 4.2 冊 全校 6.7 冊

なんと、11月で前期生と全校は、「貸出冊数6冊」の目標達成！すばらしい！！

ただ、個人的に見ると、6冊達成している人は、まだまだ半数以下です。図書委員会が考えた12月の（全校に呼びかける）目標は『もっと色々な本に興味を持とう』です。ぜひ、色々なジャンルの本に挑戦してみてください。

～新刊紹介～

- | | |
|------------------------------|-------------|
| ○ 『新世界より』 中・下 | 貴志祐介 【著】 |
| ○ 『メイデーア転生物語』 (4) (5) | 友麻碧 【著】 |
| ○ 『86エイティーンシックス』 (3) (4) | 安里アサト 【著】 |
| ○ 『東大NO.1 頭脳が教える頭を鍛える5つの習慣』 | 水上颯 【著】 |
| ○ 『変な家』 | 雨穴 【著】 |
| ○ 『赤と青のエスキース』 | 青山美智子 【著】 |
| ○ 『「いただきます」を言わない人が太るワケ』 | 浅原哲子 【著】 |
| ○ 『満月珈琲店の星詠み～ライオンズゲートの奇跡』 | 望月麻衣 【著】 |
| ○ 『この冬、いなくなる君へ』 | いぬじゅん 【著】 |
| ○ 『ペッパーズ・ゴースト』 | 伊坂幸太郎 【著】 |
| ○ 『レフトハンド・ブラザーフット』 | 知念実希人 【著】 |
| ○ 『勉強が死ぬほど面白くなる独学の教科書』 | 中田敦彦 【著】 |
| ○ 『さよならも言えないうちに』 | 川口俊和 【著】 |
| ○ 『心霊探偵八雲11 魂の代償』 | 神永学 【著】 |
| ○ 『水曜日の手紙』 | 森沢明夫 【著】 |
| ○ 『100万回死んだねこ 覚え違いタイトル集』 | 福井県立図書館 【監】 |
| ○ 『「育ちがいい人」だけが知っていること』 | 諏内えみ 【著】 |
| ○ 『家族だから愛したんじゃない、愛したのが家族だった』 | 岸田奈美 【著】 |

☆冬休み中の図書館の開館日☆

- 12月21日(火) 24日(金) 27日(月) 28日(火)
〔11時から16時30分〕
- 一人三冊まで貸し出します。
- 1月7日の始業式の日、返却してください。
- 必ずマスクを着用し、手の消毒をしましょう。(密にならないように・・・)

